

やなかわ

YANAGAWA 2011.

NO.151

7月1日

今号の内容

- ◆みんなでアクション!! 省エネ・節電 2~5
- ◆7月は同和問題啓発強調月間 6~7
- ◆各種医療・介護サービスのお知らせほか 8~9
- ◆昨年度の情報公開、個人情報運用状況ほか 10~11
- ◆予防接種のお知らせほか 12
- ◆よかばんも~体験参加者募集ほか 13
- ◆市民のひろば(14-15) ◆川柳(15) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(16-17) ◆情報わいど(18-23) ◆がんばったね(24) ◆柳川にこの人あり 荒巻勝枝さん(24) ◆もちふみデビュー(25) ◆保健ガイド(26-27) ◆新市史抄片(28)



新しいプールで 待ちに待ったプール開き

市内の小中学校で、6月にプール開きがありました。今年の3月に新しいプールが出来たばかりの城内小中学校では、2学年ずつ3グループに分かれてプール開きを実施。児童らは大きな歓声を上げて初泳ぎを楽しみました。1年生は、6年生の背中に乗って新しいプールを体感。6年生のお兄さん、お姉さんと一緒に初体験のプール開きを楽しみました。児童たちは「水がきれいで、水泳の授業が楽しみです」と笑顔で話しました。

新 市史抄片 牧園茅山の日記2

76

問い合わせ 市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275



▲耽奇漫録（伝習館文庫／柳川古文書館蔵）

前回（平成22年12月1日号・市史抄片69）に続き、江戸在府中の牧園茅山の日記を紹介したい。

◇ ◇ ◇

文政二（一八一九）年六月十七日に江戸上屋敷に到着した茅山であったが、早速、二十日から、若殿淳次郎君への『詩経』の講義が始まった。夜、留守居役の西原新左衛門に呼ばれて行き、そこで酒食をたされた。

西原新左衛門は、名を一甫、号を梭江また松蘿館主人という。この年、六十歳。この西原、江戸では、古書画・古器財などの珍品・奇物の蒐集家として有名であった。江戸留守居という役職に加えて、その趣味をもつて文人たちとの交遊範囲が広がった。

後年のことに属するが、文政七（一八二四）年五月、これら好古・好事の趣味人が集まって、「耽奇会」となるものが結成された。同八（一八二五）年十一月まで毎月一回、会員各自が所蔵の珍品・奇物を持ち寄り展覧・批評しあう会合である。西原新左衛門梭江は、その発会メンバー六人のうちの一人であり、馬琴に入会をすすめたのも、この梭江であったが、それより先、馬琴の長女幸が梭江の仲介で立花家の奥向きに出仕していた。

耽奇会では、出品されたものの図録をつくり、考証を添えて各会員に回覧した。それを集録したものが『耽奇漫録』と名づけられたが、この書名の命名者が、実は梭江であった。現在、伝習館文庫（柳川古文書館蔵）にある『耽奇漫録』は、梭江の所持していた本であり、いくつかの図書館に伝存しているもののなかでも、最も立派な出来である。また、奇事の記録や考証随筆などを書いて

披露する「兔園会」が、馬琴らによって文政八年一月に発足するが、梭江はそのメンバーにも入っている。

二十二日の午前中、若殿淳次郎君に伺候して、日課の『詩経』の講義をする。終わって藩庁の書院で、横地徳蔵から簡単な説明があった。今日は横地に代わって、茅山が公文書起草の職を務める。

翌二十三日、淳次郎君への講義を済ませて、先日知り合った関克明を、下谷和泉橋通りの家に訪ねた。江戸に来て最初の外出である。克明は、茅山を上野に誘った。「不忍の池のほとりの僧坊で、亀田鵬齋社中の書画会がある」と言った。亀田鵬齋は、江戸神田の商家出身の漢詩人である。詩のほか、唐様草書の書能くした。

会場に着いたとき、すでに会はたけなわであった。出品する者数十人、会する者数百人、すこぶる盛会であった。克明と金を払い、茅山も飲食に参加した。不忍の池は思ったよりも広く、吹いてくる風は、しばし暑さを忘れさせた。克明から、鵬齋を紹介された。鵬齋は、記念にと言って、自分の贅の入った画一幅を茅山に与えた。

平成23年5月末現在

人のうごき

- 人口 71,815人 (前月比-33)
- 男 34,007人 (-14)
- 女 37,808人 (-19)

- 出生 48人、死亡 72人
- 転入 137人、転出 146人

- 世帯数 24,536世帯 (29)

編集後記

●地デジ化はお済みだろうか。先月車載テレビの地デジ化を敢行した。7年前に購入したカーナビに、大枚をはたき地デジチューナーを接続。取り付けが完了し、鮮明な画像を期待してスイッチオン。あれ？ あまりきれいな画像がないような…。あっ、カーナビの画面が古いままだった。

●今年、ステテコが流行だそう。スポンの下に着用すると、汗でスポンがビタッとするとあの不快感もなく、サラリとする着心地になるらしい。汗かきの自分としてはありがたいが、ステテコのイメージは、自分が子どものころに着用していた父親の姿とどう自分もそんな歳に…。(賢治)

●広報の仕事を始め3か月。初めて私あてに激励のメールが。月に2回配信しているふるさと柳川メール便の読者から「いつも楽しみにしています」とのこと。広報ならではの激励に、少しこの仕事が好きになってきたと言いたいところだが、締め切り前の追い込みを考えると…。(和久)